

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成22年12月9日(2010.12.9)

【公開番号】特開2010-42007(P2010-42007A)

【公開日】平成22年2月25日(2010.2.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-008

【出願番号】特願2009-211970(P2009-211970)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)
 C 1 2 N 1/15 (2006.01)
 C 1 2 N 1/19 (2006.01)
 C 1 2 N 1/21 (2006.01)
 C 1 2 N 5/10 (2006.01)
 C 0 7 K 16/18 (2006.01)
 C 0 7 K 14/47 (2006.01)
 C 1 2 P 21/02 (2006.01)
 C 1 2 Q 1/68 (2006.01)
 A 6 1 K 45/00 (2006.01)
 A 6 1 K 39/395 (2006.01)
 A 6 1 K 48/00 (2006.01)
 A 6 1 P 35/00 (2006.01)
 A 6 1 P 31/04 (2006.01)
 A 6 1 P 31/18 (2006.01)
 A 6 1 P 11/06 (2006.01)
 A 6 1 P 31/14 (2006.01)
 A 6 1 P 31/20 (2006.01)
 A 6 1 P 31/12 (2006.01)
 A 6 1 K 38/00 (2006.01)
 A 6 1 P 37/04 (2006.01)
 A 6 1 P 37/06 (2006.01)
 G 0 1 N 33/53 (2006.01)
 C 1 2 P 21/08 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A
 C 1 2 N 1/15
 C 1 2 N 1/19
 C 1 2 N 1/21
 C 1 2 N 5/00 A
 C 1 2 N 5/00 B
 C 0 7 K 16/18
 C 0 7 K 14/47
 C 1 2 P 21/02 C
 C 1 2 Q 1/68 A
 A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 39/395 U
 A 6 1 K 48/00
 A 6 1 P 35/00
 A 6 1 P 31/04
 A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 11/06
A 6 1 P 31/14
A 6 1 P 31/20
A 6 1 P 31/12
A 6 1 K 37/02
A 6 1 P 37/04
A 6 1 P 37/06
G 0 1 N 33/53 D
C 1 2 P 21/08

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月8日(2010.10.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

- a) T細胞の共同刺激の生物学的活性を有し、
- b) 活性化されたヒトCD4+およびCD8+Tリンパ球で生じるが、休止中の、もしくは活性化されたB細胞、顆粒球、単球、NK細胞または樹状細胞では生じず、かつ
- c) 2つのポリペプチド鎖を有し、非還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約55~60kDaの分子量を有し、その分子の2つのポリペプチド鎖が還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約27kDaおよび約29kDaの分子量を有する共同刺激性分子を特異的に認識するモノクローナル抗体であって、ホルボールミリステートアセテートおよびイオノマイシンで活性化されているが休止中ではないTリンパ球を認識し、かつ共同刺激性分子の生物学的活性を阻害するか、あるいは抗CD3モノクローナル抗体OKT3と一緒にヒトTリンパ球を共同刺激する、モノクローナル抗体。

【請求項2】

共同刺激性分子が、配列番号2記載のアミノ酸配列またはその生物学的に有効な断片、あるいは1以上のアミノ酸の置換、欠失、または付加を有する配列番号2記載のアミノ酸配列を含んでなる、請求項1に記載の抗体。

【請求項3】

非還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合の分子量が約55~60kDaである抗原を活性化されたTリンパ球上で認識する、請求項2.8または2.9に記載の抗体。

【請求項4】

還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合の分子量が約27kDaおよび約29kDaである抗原を活性化されたTリンパ球上で認識する、請求項2.8または2.9に記載の抗体。

【請求項5】

- a) T細胞の共同刺激の生物学的活性を有し、
- b) 活性化されたヒトCD4+およびCD8+Tリンパ球で生じるが、休止中の、もしくは活性化されたB細胞、顆粒球、単球、NK細胞または樹状細胞では生じず、かつ
- c) 2つのポリペプチド鎖を有し、非還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約55~60kDaの分子量を有し、その分子の2つのポリペプチド鎖が還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約27kDaおよび約29kDaの分子量を有する共同刺激性分子を特異的に認識するモノクローナル抗体

を含んでなる、前記共同刺激性分子のT細胞への生物学的活性を調節するための組成物。

【請求項6】

共同刺激性分子が、配列番号2記載のアミノ酸配列またはその生物学的に有効な断片、あるいは1以上のアミノ酸の置換、欠失、または付加を有する配列番号2記載のアミノ酸配列を含んでなる、請求項5に記載の組成物。

【請求項7】

前記共同刺激性分子のT細胞への生物学的活性を活性化させるための請求項5に記載の組成物。

【請求項8】

前記共同刺激性分子のT細胞への生物学的活性を阻害するための請求項5に記載の組成物。

【請求項9】

自己免疫疾患の治療、臓器移植における拒絶反応の予防、喘息の治療、および/または免疫系の調節異常の治療に用いられる、請求項5に記載の組成物。

【請求項10】

自己免疫疾患が、リウマチ様関節炎、強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、および潰瘍性大腸炎から選択される、請求項9に記載の組成物。

【請求項11】

a) T細胞の共同刺激の生物学的活性を有し、
b) 活性化されたヒトCD4+およびCD8+Tリンパ球で生じるが、休止中の、もしくは活性化されたB細胞、顆粒球、単球、NK細胞または樹状細胞では生じず、かつ
c) 2つのポリペプチド鎖を有し、非還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約55~60kDaの分子量を有し、その分子の2つのポリペプチド鎖が還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約27kDaおよび約29kDaの分子量を有する共同刺激性分子を特異的に認識するモノクローナル抗体を含んでなる、診断用組成物。

【請求項12】

自己免疫疾患の診断に用いられる、請求項11の組成物。

【請求項13】

診断のためにELISA検出法、フローサイトメトリー、ウエスタンブロット、放射性免疫検定法、比濁分析法、または組織化学的染色が用いられる、請求項11に記載の組成物。

【請求項14】

自己免疫疾患の治療、臓器移植における拒絶反応の予防、喘息の治療、および/または免疫系の調節異常の治療に用いられる医薬の製造のためのモノクローナル抗体の使用であって、該モノクローナル抗体が

a) T細胞の共同刺激の生物学的活性を有し、
b) 活性化されたヒトCD4+およびCD8+Tリンパ球で生じるが、休止中の、もしくは活性化されたB細胞、顆粒球、単球、NK細胞または樹状細胞では生じず、かつ
c) 2つのポリペプチド鎖を有し、非還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約55~60kDaの分子量を有し、その分子の2つのポリペプチド鎖が還元SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動で測定した場合に約27kDaおよび約29kDaの分子量を有する共同刺激性分子を特異的に認識するものであり、

ホルボールミリステートアセテートおよびイオノマイシンで活性化されているが休止中ではないTリンパ球を認識し、かつ共同刺激性分子の生物学的活性を阻害するか、あるいは抗CD3モノクローナル抗体OKT3と一緒にヒトTリンパ球を共同刺激するものである、使用。

【請求項15】

自己免疫疾患が、リウマチ様関節炎、強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、および潰瘍性大腸炎から選択される、請求項14に記載の使用。